

学館二期五事合宿報告

11月8・9・10日 明大信農学寮において、101名の圧倒的多数の参加を持って我々は二期五事を打開めく困難な立場にある所の二期五事合宿を勝ちとてきました。

現在行われている東大、日大等々、学園斗争が松葉改革、民主化斗争から具体的に「政治的自由の要求へ」と、その質的発展をとげつつある。明治大学のみならず全田学館斗争の初期のそれはまさに物取り主義的であり理念そのものも平和と民主主義によって立て立てられていた。ところが今では産業構造の重化学工業化に伴い帝田主との原則である不均等競争が体内膨脹緩慢ながらも膨脹へと移行し、その發展段階において海外市場分割戦を行おうとするを得なくなれば、在政府アルゴリ江は自らその平和と民主主義の理念を辯護に取扱し、一方我々においてもこの運動原則に賛同と見い出し、それに伴う政治の弊は空洞化し今や我々の運動理念になり得けれども、さりと程認し、ここにおいて新たなる我々の運動形態を外权力から自ら守る目的の弊から权力と対立しうる自らの力量で形成し自分たちの体制をうち立てた所の自己教育の場として体制批判と倫理的、実践的裏付けの場として学館を黒頭付け、学館並びに両中幹を軸にした自己权力思想に基いた運動を展開していくと、今更ながら今宿における「私的な基本線を大衆的に確認を勝ちとった。具体的な学館二期五事において、我々が勝ちとったのはなんぞか。それは、我々が使う、そこまで自己权力の根柢とすべき学館はすでに全ての行程において我々の手によて建設する基本的従事となり。設計权・施行権をすべて勝ちとり、又、内実の大如、空洞化といわれてゐる學館運営权を強固に確立し、その財政的裏付けである運営費の拡充であり、さらには・和泉・生田地区等二期五事に関する理事会との暫定的取りきめとそれをもとにした團体的質を持つ。ここれぞ確約へそして建設にまさか並めて行きねばならない。また我々が二期五事をもう斗争を通じて勝ちとつて行為のばらばらないことに以て述べてきた自己权力、自己教育、具体的内容として自主講座路線を設定し、提出し、各組織の固い連帯と支持の決意表明を受け、意見一致を勝ちとつた。自主講座をシカゲ設定するにあたって我々は現大学教育における大学の帝田主との再編(支那件)、中絶労働者大量生搬新規をも徹底して批判し又自らの学向の方向と内容で設定する中にありてなされぬない、などうとも思える。学館委員会はこの問題を提起し、自主講座実行委員会の設立とその具体的な内容を全ての学友と共に我々自己教育を行うことであり並めよつとするものである。さらに発展した運動において我々は政治過程に登場し自由の権利は今後要求すべきものだけではなく主張するものなのだ。

そこで二期五事けヨサに我々の新しい活性とさし示していける自治の第1輪崩壊した今地区での個別的な斗争をするのみでなく全学的に又全国的に学館斗争でまとめて、明大学館は常に全田学館斗争の前駆者として行動しました今宿の命運の勝利により、新たな運動方針を全田に示した。

全ての学友諸君、学館全学共斗會議に結集し固い決意を持て当局の权力をのり越えてゆこう。

スローガン

- ・学館第二期五事を勝ち取れ！
- ・学内協調路線掲げ！
- ・学館と自己权力、自己教育の根柢とせず！
- ・全ての学友は学館斗争全学共斗會議に結集せよ！

・学館特別委員会
・生田学館委員会